

改定
傳染病豫防心得書
全

德島縣公布全書號外



038357-000-9

CZ-1562-95-01

傳染病予防心得書(改定)

国安久助

M24

BBZ-0155



●德島縣告示第二百十三号

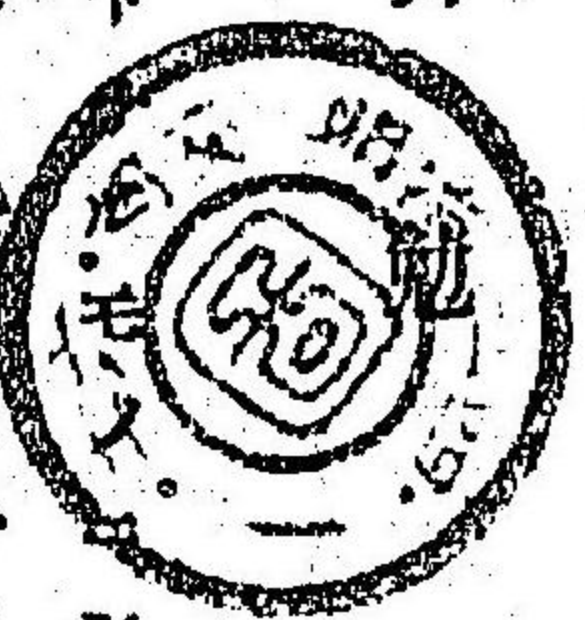
傳染病豫防心得書左ノ通相定ム

明治廿三年十二月三日

傳染病豫防心得書

德島縣知事

櫻井



傳染病ノ流行ハ一人一家ヨリ町村都市ニ及ヒ遂ニ延テ府縣全國ノ災害ト
 之ヲ豫防スルハ一人一家ノ始メニ於テスルニ非サレハ其全功ヲ收ムルヲ能ハス今ヤ郡
 市町村各其利害ヲ負擔シ處理スルノ日ニ及テハ傳染病ノ如キ其病毒ヲ一人一家ニ撲滅シ
 テ全衆ノ生命財産ヲ安全ニ保護スルハ自治事業ノ最モ急要ナルモノトス故ニ若シ其市
 町村ニ傳染病若シ發生スルコトアレハ所在ノ醫師ハ成規ノ通報ヲ爲シ豫防上ノ要件ヲ病家ニ
 示諭シ病家ニ醫師及ヒ當該吏員ノ示諭スル諸件ヲ守リ當該吏員ハ十分ノ注意ヲ以テ豫防
 消毒ノ處置ヲ疎虞遺漏ナカラシムコトヲ務ムヘシ而シテ豫防ノ方法ヲ實際ニ徹底セシメ
 ン
 トスルニハ衛生組合ヲ設ケ組合中互ニ警戒扶持スルヲ良シトス蓋シ傳染病ノ流行ハ其初
 メ些細ノ注意ヲ缺キ或ハ患者ヲ隱蔽シ又ハ吐瀉物ヲ下水、芥溜等ニ投棄シ又ハ病毒感染
 ノ疑アル雇人稼人等ヲ猥ニ歸郷セシムル等ニ因リ病毒遠近ニ傳播シ復タ防遏スヘカラハ
 ルノ勢ヲナスコト其例證一ニシテ足ラス到底衛生組合ノ法ヲ設ケ隣保相互ノ制裁ヲ以テ各
 人ノ注意戒慎ヲ喚起スルニ非サレハ市町村共同ノ方法モ其全効ヲ收ムルヲ能ハカルナリ
 以上ハ豫防實施上市町村ニ於テ擔當スヘキ用意ノ要領ニシテ若シ其流行數市町村ニ及フ

カ若クハ病性ノ急劇ナル虎列拉ノ如キモノニ在テハ更ニ郡又ハ縣ノ力ヲ以テ豫防ノ方法ヲ務ムヘキモノトス

此心得書ハ主トシテ患者發生セル時ノ處置即チ有病時ノ豫防法ヲ舉ゲタルモノナレドモテ傳染病ハ地方病トナリテ年々發現スル地ヲ除クノ外ハ概テ數年若クハ數十年ヲ隔テ流行スルカ故ニ其流行セザル時ニハ永ク本病ノ災害ヲ免カレ得タルカ如キ思テ爲ストモトモトモ傳染病毒ハ不潔汚穢ノ土地ニ入レハ容易ニ蕃殖蔓延スルモノナルヲ以テ平常上水下水ノ改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設クル等万全根治ノ策ヲ怠ラス用水ヲ純清ニシ住地ヲ乾浄ナラシムルニ非サレハ決シテ其流行ヲ免カル、能ハス故ニ就中都會ノ地ニ於テハ鼠疫ニ下水ノ改良工事即チ水道暗渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ成スヲ要ス

總 則

- 第一條 市町村ニ於テハ便宜衛生組合ヲ設ケ清潔法、攝生法其他傳染病豫防ノ事ニ就キ規則ヲ立テ之ヲ履行スルヲ要ス
- 第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲ爲スハ勿論此心得書ノ病ノ部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スルヲ要ス
- 第三條 市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキハ速ニ病家ニ臨ミ病室、器具、被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲ怠ラザラントコトヲ要ス

前項醫師ノ通知ニ接セザルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師ヲシテ之ヲ診察セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クナラントコトヲ要ス

第四條 傳染病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リテハ人夫ヲシテ病者ニ汚染セルモノヲ取り集メシメ消毒法ヲ施スヲ要ス

第五條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ患者ノ身體若クハ死屍、看病人、患者ノ居室其他病者ニ汚染セル衣服、器具等ニ消毒法ヲ行フヲ要ス

第六條 總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員、人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬器等モ使用シタル毎ニ消毒法ヲ施スヲ要ス

第七條 郡市長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防法ヲ周到ナラシメ又有病地ノ病況ト豫防法實施ノ景況トヲ具シテ之ヲ縣廳ニ報告スヘシ

虎列拉

虎列拉ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐至ラザルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ舍ルカ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノ、消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病者ノ未ダ散蔓セサル前ニ於テ

十分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部ニ熄滅セサルヘカラス

第一條 虎列拉患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ長クスルコト
- 四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ參漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ其吐瀉物ハ成ルヘク之ヲ燒却スルコト
- 五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト
- 六 患者用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 七 患者ノ身體、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト
- 八 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ吐瀉物ニ觸レサル様注意シ且ツ其吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル

物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇永水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

- 九 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト
- 十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサレコト

第二條 虎列拉發生シタルキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
 - 二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムテ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト
 - 三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト
 - 四 飲食物ハ成ルヘク熟煮シテ用フルコト
 - 五 總テ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下利患者ノ上レル便所ニハ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌クコト
- 第三條 虎列拉流行ノ際下利若クハ吐瀉スル者アルトキハ其瀉下物吐出物ニ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ灌キ醫師ノ診斷ヲ乞フベシ

第四條 虎列拉發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ

- 一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトハ其部分ノミチ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹矮ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ
- 二 前項及傳染病豫防規則第十五條第二項ノ場合ニ於テ交通遮斷ヲ施行スルキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト

三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト

四 交通遮斷中ハ市町村吏員又ハ警察官吏ニ於テ其区域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ区域内ノ各家ヲ巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト

五 患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷区域内ノ患者全ク絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルトキハ遮斷ヲ解除スルコト

六 遮斷区域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒己ニ他方ニ及ビアリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト

第五條 交通遮斷區域内若クハ曾テ虎列拉ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ據

リテ消毒的清潔法ヲ施行スルコト

一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗滌シ十分ニ疏通セシムルコト

二 芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ燒却シ若シ燒却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周子ク撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ爲スコト

一 家什ヲ出シ疊ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具疊、建具等ハ日光、空氣ニ曝スルコト

二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト

第六條 虎列拉流行ノ虞アルトキハ其市町村又ハ郡若クハ縣ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルモノトス

一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第七條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、郡市町村吏員等及警察官吏衛生官吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ヲ施行スヘキモノトス

腸室扶私

腸室扶私ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ舍リ虎列拉病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖漫漶シ廣シ流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其豫防ノ方法ニ至テモ虎列拉ト略ホ其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見ケルコトナシ明治十三年傳染病豫防規則發布以來十年間ノ患者三拾壹万餘死亡七万余ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症輕過ノ久シキ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎列拉ヨリ甚キモノアラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ盡シテ之レヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防センコトニ怠ルナカラシムルヲ要ス

第一條 腸室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ長クスルコト
- 四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト

五 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

六 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五十分一ノ石炭酸水ヲ灌キ(成ルヘク能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ灌クコト

七 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

八 患者ノ身體、糞便及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ集マテナル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セサル様注意スルコト

九 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

十 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト

第二條 腸室扶私發生シタルキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生

- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フ
ルコト

三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速
ニ之ヲ改修スルコト

四 飲食物ハ成ルヘク煮熟シテ之ヲ用フルコト

五 總テ熱性病ニ罹リ又ハ下利ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 腸室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スル
コト

二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ

綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

赤痢

赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ之ヨリ傳染スルモノニシテ病性大ニ腸室扶私
ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テモ略ホ腸室扶私ト同一ノ方法ニ據リ而シテ
流行時ニ於テハ瀉下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖モ本病者ト同様ニ取扱フヲ要ス

抑本病ハ腸室扶私ト同シク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノニシテ明治十三年以來十年間ノ患
者數殆ト二拾萬ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キハ一年ニ流行ノ勢ヲナシ病
毒漸次ニ全國ニ浸淫セントスル故ニ本病ノ年々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清潔ヲ力
メ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ盡シテ第
二ノ流行ヲ防ク等總テ腸室扶私ニ於ケルカ如クナラント要ス

實布埜里亞

實布埜里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼稚ナル者ハ症狀最險惡
ナリ抑モ本病ノ病毒ハ咽頭喉頭ノ如キ部分ニ含リテ患者ノ痰唾、鼻汁其他患者ノ使用
セル衣服、玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者
殊ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校幼稚園等兒童ノ群集スル場所ハ往々本
病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

第一條 實布埜里亞(格魯布)又ハ之ニ疑似セル患者アレ家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要
ス

一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、

幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園
ニ報告スルコト

二 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶テ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト

- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
 - 四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セザル様注意シ數々硼酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含漱シ且ツ患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
 - 五 患病ノ痰唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ蓋覆チ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルヲ又患者ノ含漱シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ル、
 - 六 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト
 - 七 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童 共用セシメサルコト
 - 八 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
 - 九 患者恢復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハサル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト
- 第二條 實布埤里亞(格魯布)發生シタルキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト
 - 二 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメザル様注意スルコト
 - 三 兒童ノ感冒ニ罹ルモノアルキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト
- 第三條 實布埤里亞(格魯布)患者頻々發生スルキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス

- 一 醫師ヲシテ小學校、幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト
- 二 小學校、幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト
 - 一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家へ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校、入園ヲ禁スルヲ
 - 二 兒童中咳嗽或ハ發熱スルモノアルキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨ヲ其家人ニ勸告スルヲ
 - 三 生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルキハ其家ニ就テ缺席ノ理由ヲ問フヲ
 - 四 出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸レシメサルヲ
 - 五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルヲ
 - 六 教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ悉皆窓戶ヲ開放シテ十分ニ空氣ヲ流通セシムルヲ
 - 七 教場内所々ニ適宜ノ瓶、壺等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒痰、唾ハ此器中

吐カシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校、幼稚園ヲ閉鎖スルヲ要ス

發疹室扶私

發疹室扶私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳播ノ最モ迅疾ナルモノナリ其一タヒ流行ノ兆ヲ呈ハスヤ忽チ散漫傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場所ニ侵入スルハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不良ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛劇トナリ全部ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルコトハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ貧民部落ニ侵入セルトキハ避病院又ハ療養所ノ開設、貧民救療法ノ普及ヲ怠ルヘカラス

第一條 發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人患者ノ居室ヲ出ツルハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フ

コト

五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ濯キ所定ノ便所ニ移スコト

六 患者ノ用ヒル衣服、臥具、敷物、飲食器其他總テ患者ノ身體ニ接觸セルモノ及ヒ看病人ノ衣服ハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

第二條 發疹室扶私發生シタルキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ於テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス

- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト
 - 二 家屋ヲ清潔ニシテ空氣ノ流通ニ注意スルコト
 - 三 身體衣服ヲ清潔ニシ過度ノ勞力、露臥、夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト
 - 四 總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 發疹室扶私患者續々發生スルキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スルヲ要ス
- 一 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
 - 二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト
- 第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムルヲ要ス

痘 瘡

痘瘡ノ病毒ハ痘漿、痘痂中ニ含レルハ勿論患者ノ身體ヨリ發出スル蒸發氣中ニモ之ヲ含ミ傳染力ノ強烈ナル遙ニ他病ノ上ニ出ツル故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病毒ヲ傳ヘテ遂ニ無數ノ人衆ヲ侵セルカ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ万全ノ豫防法アリテ能ク其患害ヲ未然ニ防制シ得ヘシト雖モ再三之ヲ反復セザレハ其効全カラサルヲ以テ苟クモ本病發生スルキハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相待テ十分ニ病毒ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニ據ルニ保母、看病人タルモノ親シク患者ヲ介抱シ痘毒ニ汚染セラル、モ其手足、衣服等ニ十分ノ消毒法ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セシムルノ例甚タ多シ深ク戒ムヘキコト、ス

第一條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アレ家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス

- 一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タルモノハ臨時ニ種痘ヲ爲ス
- 二 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト
- 三 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツ
- 四 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

- 五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルニト
 - 六 患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ豫メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片、紙片又ハ落痂及ヒ居室内ノ塵埃等ハ必ス此器中ニ入ル、コト但器中ノ汚物ハ藁、鈹屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ澀キテ之ヲ燒却スルコト
 - 七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
 - 八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ澀キ所定ノ便所ニ移スコト
 - 九 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
 - 十 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
 - 十一 患者ノ身體及ヒ痘漿ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚マラサル様之ヲ防シコト
 - 十二 患者ノ痘瘡落痂スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス
- 第二條 痘瘡發生シタルキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヲ要ス但衛生組合ノ設ケアル地方ニ在テハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スルヲ要ス
- 一 患者アル家ト成ルベク交通ヲ爲サ、ルコト

二 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タルモノハ臨時ニ種痘スルコト
三 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケルコト

第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムルヲ要ス

○消毒方

傳染病毒ハ其本體已ニ詳ナルアリ未タ詳ナラザルアリト雖モ要スルニハ生々蕃殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レズ此有機體タル各病孰レモ其性状ヲ異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ舍リテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹室扶私病毒ノ如キハ患者ノ身體及ヒ之ニ接觸セルモノ其他居室内ノ空氣ヨリ傳染シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身體、居室内ノ空氣ヨリ又ハ痘痂、痘漿及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スルモノハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力、瀋熱、藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用用法ヲ領得シ決シテ疎漏ノコトナカラシムルコトヲ要ス

消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類及ヒ効用

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死體及ヒ病毒ニ汚染スルコト甚シクテ貴重ナラサル品ハ成ルヘシ燒却スヘシ

第二 瀋熱附煮沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱瀋ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成ルヘシ熱瀋消毒器中ニ入レテ熱瀋ノ内部ニ透徹シ易キ樣適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱瀋ヲ周テシ通シテ消毒スヘシ

熱瀋消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒鄉僻地ニ設クルヲ得テルモノアリト雖モ要スルニ攝氏百度以上ノ熱瀋ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ涵蒸スルヲ得ハ足レルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一法ヲ舉レハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿テ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通セシメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿テ寒暖計ヲ插入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムヘシ此裝置タル甚ク簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス

又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ市町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ハ三十分時間以上ヲ持續セカレハ消毒ノ効全カラズトス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍)

結晶石炭酸 五分
水 九十五分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚ク廣シト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘク他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ例ヘハチ用フレハ光澤ヲ損シ昇汞水其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニノミ使用スヘシ

本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品ニ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後斑點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造精緻ノ家屋、貴重ノ物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス

本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ランコトヲ要ス

- 一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ
 - 二 本品ヲ以テ器具室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨スヘシ
 - 三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
- 本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、除々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ至ラシムヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙 昇汞水(千倍) 昇汞水一分、鹽酸五分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシ無臭無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際充分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カンガ爲メ本品百分ニ硫酸銅一分

ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器、玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若クハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器、糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ貯フヘカラス本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲乙兩種ノ消毒藥ニハ「劇シク藥ナリ飲ビヘからず」ト票記スヘシ

生石灰

丙 石灰乳(十倍) 生石灰 一分、水 九分

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列拉、腸窒扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐瀉物、瀉下物、下水等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ宜シトス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ
生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ濯ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノヲ用フヘシ又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰水(即鹽化) 格魯兒石灰 五分、石灰水(廿倍) 水 九十五分

格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フヘシ

本品ハ用ニ臨テ製スルチ可トス

戊 硫酸若クハ粗製硫酸同量ノ水ニ溶

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池、下水等ノ消毒ニ用フルチ

得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルチ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルコハ糞便ト同量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ 本品ヲ糞池ニ入ルレ

スルノ恐アルチ以テ其糞便多量ナル場合コハ其幾分ヲ他器ニ分チテ各別ニ消毒スルチ可

トシ又本品ハ漆喰、敲金屬製器ヲ損傷スレノ恐アルチ以テ糞池ノ周邊漆喰、敲ナルトキハ消

毒ノ際特ニ注意シ又金屬製器ニ容ルヘカラス

本品ヲ製スルコハ五十分ノ水ヲ取り絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若クハ

粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

消毒ノ方法

第一 患者

傳染病者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴ヲ

取ラシムヘシ

第二 死體

傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ歛ムヘシ但成ルヘク火葬スルチ良シ

トス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事シタル吏員、人夫等ハ手足

ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ汚垢

ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者、死體等運搬器

患者、死體等ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周チク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ灌

クヘシ

第五 便所、芥溜、下水等

虎列拉患者ノ吐瀉物、腸室扶私赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜

等ニハ少ナクモ糞便ノ量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水 此用量ハ最低度ヲ示シタル

固ヨリチ灌マテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周チク右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ但此消毒法

ヲ施行シタル糞池、肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新クニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉下物ヲ混入セ

サルトキハ一週間ノ後普通ノ糞便同様肥料ニ供スルモ妨ケナク又其便所ハ消毒後之ニ通

フモ妨ナシ

虎列拉患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌マ吐瀉物ト

共ニ表面ノ土ヲ掘リ取リテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ルヘクハ燒却シ其跡ニ尙ホ右

ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ

虎列拉患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル芥溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ撒布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布スヘシ
虎列拉患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌テ能ク攪拌シタル後多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムヘシ

第六 衣服、器具、疊、敷物等

- 一 傳染病者ノ著用セル衣服及ヒ患者ノ用ニ供シタル臥具、蚊帳、飲食器、藥用器、玩具其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類
- 一看病人其他病者ニ汚染セル病家ノ家人、消毒法ノ施行ニ從事セル吏員、人夫等ノ著用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等

一 患者ノ居室内ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノノ右ノ内衣服、臥具、蚊帳等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

- (一) 熾熱消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏百度以上ノ熱熾ヲ三十分乃至一時間以上周子ク通セシム
- (二) 煮沸 熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス
- (三) 石炭酸水浸漬 石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス
- (四) 昇汞水浸漬 昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ニ淨水ヲ以テ洗濯ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ

- (一) 石炭酸水拭淨 石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ニ淨水ヲ以テ拭淨ス
 - (二) 乾布拭淨 屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭擦シ其乾布ハ速ニ燒却ス
- 其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フヘカラス
木製器ニハ前二項ニ依リ行フヘシ但汚染甚シク且ツ高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良シトス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ
革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用ヒテ消毒スヘシ

疊蓆絨緞段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル後日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ例之ハ患者ノ吐瀉物、瀉下物ノ浸漬セルモノ、虎列拉、發疹、瘡痂私、痘瘡患者ノ病室内ニ敷キアリタルモノ、類ハ燒却スヘシ

第七 患者ノ居室

傳染病者居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚ケ此疊、敷物ノ消毒ハ前項ニ據ルヘシ
室内各部床及ヒ床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ床及ヒ床下ニ吐瀉物滲漏セルトキハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ十分ニ撒注スヘシ
掃除後昇汞水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ叮嚀ニ拭淨スヘシ
右ノ消毒法ヲ了レル後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄家人ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

第八 瀛車

虎列拉患者アリタル瀛車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメタル爲メ石灰、石炭
焚屑、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ焼却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消毒法
ニ準スベシ但車室ニ附属スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

第九 船舶

傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先チ人家及
ヒ他ノ船舶ニ隔タリタル所ニ廻航セシムルヲ要ス
一患者アリタル船舶ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内
各部ヲ掃除シ次ニ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ周子ク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗淨
シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ル
ヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ
一患者アリタル室ノ外ト雖モ病毒汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ
虎列拉ニ於テハ前二項ノ他尙ホ左ノ方法ヲ行フヘシ
一患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗滌スヘシ
一吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ灌キ船底ニ滞留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ
之ヲ洗滌スヘシ
一船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗淨スヘシ

德島縣令第五十一号

明治十六年^{十月}甲第七十号布達傳染病豫防條規左ノ通改正ス

明治二十三年十二月三日

傳染病豫防條規

第一章 通 則

德島縣知事 櫻井 勉

第一條 本規ハ明治十三年第三十四号布告傳染病豫防規則ニ基キ其實施ノ方法ヲ定ム

第二條 傳染病ニ罹リタリト思慮スルトキ又ハ其疑アルトキハ速ニ醫師ノ診斷ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ患者百癒又ハ死亡シタルトキハ速ニ主治醫ニ通知スヘシ若シ主治醫ナキ死

亡者アルトキハ速ニ所管市役所町村役場又ハ警察署、分署、巡查派出所、駐在所ノ内ニ届出

テ指揮ヲ受クヘシ

第四條 醫師傳染病患者ヲ診察シタルキハ相當ノ所置ヲ爲シ豫防消毒ノ方法ヲ其家人ニ懇

示シ明治十七年^{五月}甲第二十号布達傳染病患者届出手續ニ依リ届出ヘシ但シ其届書ハ患者ニ

依託スヘカラス

第五條 患者及近隣居住人ハ左ノ各項ノ場合ニ於テ掛官又ハ掛吏員ノ指揮ニ隨フヘシ但シ

其指揮ニ隨ハサルモノハ掛官又ハ掛吏員於テ相當ノ所分チ爲シ之レカ費用ヲ償ハシム

- 一 病毒傳播ノ虞アルカ又ハ豫防消毒ノ方法行届キ難シト認メ患者ヲ避病院又ハ避病舎
ヘ移入スヘキ指揮ヲ受ケタルトキ

二 廁園、下水、芥溜其他器具物品等病毒含有ノ虞アリト認め其消毒ノ指揮ヲ受ケタルトキ

三 廁園、下水、芥溜等ノ掃除ヲナスヘキノ指揮ヲ受ケタルトキ

四 患者ノ家族ニ對シテ外出ノ停止又ハ隔離所ニ移轉ノ指揮ヲ受ケタルトキ

五 井戸浚又ハ飲用停止ノ指揮ヲ受ケタルトキ

六 縣知事ニ於テ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ對シテ交通遮斷ヲ命令シタル場合ニ於テハ其實施上諸般ノ取扱ニ屬スル指揮ヲ受ケタルトキ

第六條 患者又ハ死体ハ健康者ト室ヲ異ニシ醫師看病人等必要ノ者ノ外家族親戚ト雖モ漫ニ近接スヘカラス

第七條 患者又死体ハ掛官又ハ掛吏員ノ指揮ヲ受クルニアラサレハ他ニ移轉スヘカラス

第八條 死体ハ掛官又ハ掛吏員ノ指揮ヲ受ケ速ニ消毒法ヲ行ヒ入棺シ火葬スヘシ若シ之ヲ埋葬スルトキハ左ノ各項ニ依ルヘシ但虎列拉、發疹室扶私、痘瘡ノ死体ハ明治十八年^三月本縣甲第十四号布達墓地及火葬場設置規則第二章第八條ニ依リ許可ヲ受ケタル墓地ニ限ル

一 死体ハ内外ニ盜衣ヲ有シ滲透ノ虞ナキ陶器ニ昇永水又ハ石炭酸水ヲ充タシ之ニ歛ムヘシ

二 棺ノ覆蓋ハ厚キ松製ヲ用ヒ「チヤン」ヲ以テ密閉スヘシ

三 擴穴ハ深サ八尺以上ヲ穿テ棺ノ周圍ニ充分生石灰ヲ入ルヘシ

第九條 死体ハ掛官又ハ掛吏員ニ於テ豫防上必要ト認めルトキハ死後二十四時間ノ猶豫ヲ待

ラスシテ直ニ火葬又ハ埋葬セシムルコトヲ得

第十條 患者ノ治癒シタルモノ並ニ看病人、運搬夫、死体取扱人ハ消毒法ヲ了リタル後ニアラサレハ外出若クハ他人ト交通スヘカラス

第十一條 患者ニ用ヒタル病室、臥具、衣類、器具其他病室内ニ置キタル物品及看病人ノ衣類ハ消毒法ヲ了リタル後ニアラサレハ之ヲ他ニ使用シ又ハ賣買授受スヘカラス

第十二條 患者、死体、排泄物及病毒附着ノ疑ヒアル物品ヲ載セタル船車、昇輿、釣臺等亦第十一條ニ同シ

第十三條 病毒ニ汚染シタル臥具、衣類、器具等ニシテ消毒法ニ從ヒ洗滌シ得ヘキモノハ漏泄ノ虞ナキ容器内ニ於テ之ヲ爲スヘシ決シテ港灣、河川、溝渠等ニ於テ洗滌スヘカラス且其汚水ノ處置ハ掛官又ハ掛吏員ノ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 港灣河川等ノ船舶内ニ於テ患者又ハ死體アルトキハ總テ人家ノ例ニ依ルヘシ

第十五條 航海中船舶内ニ於テ患者又ハ死體アルトキハ相當ノ處置ヲ爲シ著港ノ上其地ノ市役所、町村役場又ハ所轄警察署、分署、巡查派出所、駐在所ノ内ニ届出テ指揮ヲ受クヘシ

第十六條 本規ニ於テ掛官又ハ掛吏員ト稱スルハ衛生官吏、警察官吏、郡市町村吏員及豫防委員、檢疫委員ニシテ現場ニ出張シ指揮監督スルモノヲ云フ

第十七條 本規ノ外法律規則ニ於テ明條アルノモノハ各其本法ニ依ルヘシ

第二章 虎列拉病

第十八條 本病ニ罹リタル患者ハ出張掛官又ハ掛吏員ニ於テ左ノ各項ニ該當セサルモノト認ムルトキハ患者ノ自宅ニ於テ豫防消毒ノ方法行届カズ病毒傳播ノ虞アルモノト看做シ避病院又ハ避病舎へ移入セシム但シ近隣ノ狀況、病勢ノ緩急及患家ニ於テ隔離消毒法ノ周到スルヤ否ヤヲ視察シ且檢疫醫員又ハ主治醫ノ意見ヲ參酌シ尙ホ傳播ノ虞アリト認ムルトキハ左項ニ該當ノモノト雖モ自宅療養ヲ許サ、ルコアルヘシ

一 家族ノ居間ト充分隔離シ得ヘキ病室アル者

二 看病人運搬夫ヲ備ヘ置キ且消毒其他必要ナル什具類ノ供給ニ差支ヘカルモノ

三 其他取繕上ニ差支ナキ建物位置ヲ有スルモノ

四 主治醫アルモノ

第十九條 患者ノ吐瀉物又ハ其汚染セル物品ハ滲漏ノ虞ナキ器物ニ入レ覆蓋ヲ具ヘ消毒法ヲ施シ置キ掛官又ハ掛吏員ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十條 患者ノ上リタル厠圍ハ消毒法ヲ了リタル后ニアラサレハ之ヲ使用シ又ハ其尿尿ヲ汲取リ若クハ汲取ラシムヘカラス

第二十一條 患者ノ上リタル厠圍ニシテ病毒滲透ノ虞アルモノハ速ニ其部分ノ改造ヲ爲スヘシ

第三章 腸窒扶私病

第二十二條 本病ニ罹リタル患者ノ瀉下物、厠圍ハ第十九條第二十條ヲ適用ス

第二十三條 本病流行ノ場合ニ於テハ第十八條ヲ適用ス

第四章 赤痢病

第二十四條 本病ニ罹リタル患者ハ第十八條ヲ適用ス

第二十五條 患者ノ瀉下物、厠圍ハ第十九條第二十條ヲ適用ス

第五章 實布埜里亞病

第二十六條 患者及看病人ニハ兒童ヲ近クヘカラス

第二十七條 患者ノ痰唾、鼻汁及之ニ汚染シタル手巾、紙片、綿布等ハ其都度消毒法ヲ施シタル上燒却スヘシ

第二十八條 患者ノ用ニ供シタル一切ノ物品玩弄品等ハ消毒法ヲ了リタル后ニアラサレハ他ニ使用スヘカラス

第六章 發疹窒扶私病

第二十九條 本病ニ罹リタル患者ハ第十八條ヲ適用ス

第七章 痘瘡病

第三十條 本病ニ罹リタル患者ハ第十八條ヲ適用ス

第三十一條 落痂後一週間ヲ經ルニアラサレハ外出スヘカラス

第三十二條 病室及患者ノ用ニ供シタル一切ノ物品ハ消毒法ヲ了リタル后ニアラサレハ未痘者ヲ近クヘカラス

第八章 罰則

第三十二條 本規第七條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十五條第十九條第二十二條第二十七條第二十八條第三十二條ニ違背シタル者ハ刑法第四百二十六條ニ依リ罰セラルヘシ

●德島縣訓令第九十一号 明治廿三年十二月三日郡役所、市役所、町村役場、警察署、警察分署

本年七月 本縣訓令第五十七号及全年八月 本縣訓令第六十一号ヲ以テ傳染病豫防心得書ノ内總則虎列拉病ノ部及消毒法及訓令置候處本年十二月 本縣告示第二百十三号ヲ以テ該心得書ノ全部及發令候條自今總テ右心得書ニ依準スヘシ

●傳染病豫防規則 明治十三年七月九日 第二十四號布告

明治十二年八月 第三十二號虎列刺病豫防仮規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總 則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸窒扶私、赤痢、實布臣利亞、發疹室扶私、及ヒ痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アレキハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スルモノハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通

知スルヲ要ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出ヘシ十八年第二号布告ヲ以テ(衛生委)員(戸長)ト改ム以下皆同シ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ケナシ地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及治癒死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スヘシ十三年第五十四号布告

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ其性状ヲ記シテ速ニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ同上但書

第四條 同上ヲ刪除ス

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄、及ヒ官立學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルキハ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡、流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルトキハ内務省ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交通ヲ絶ダシムヘシ十五年第四十七号ヲ以テ病名貼付儀ハ當分施行セラル旨ヲ布告ス

但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其遺骨ハ改葬スレモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラザレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及厠園、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛劇ナルキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備フル病ヲ診斷スルキハ總テ檢疫委員ニ届出ヘシ十五年第四十八号布告ヲ以テ本項但書共追加

但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ムヲ得

虎列拉巴ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホカサル様遮斷シ得ヘモノト見認ムルトキハ地方官ヨリ内務卿稟議シ交通ヲ絶タシムル所分チ爲スコトヲ得十四年第五十八号布告ヲ以テ第二項ヲ追加ス
但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及第十二條ヲ適用スヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却スヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病者アルキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十

三條第十四條及第十五條ヲ適用スヘシ 十三年第五十四号布告

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラザルハ他用ニ供スヘカラス

痘 瘡

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ 十五年第四十八号布告
告テ以テ全條改正

罰 則

第二十二條 醫師戸長此規則ニ違背シタルキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルキハ壹圓五十錢以内ノ科料ニ處ス

德島縣訓令第五十八号 明治廿三年七月廿八日郡役所、市役所、町村役場、警察署、警察分署

虎列刺病發生ノ節交通遮斷ハ市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ニ於テ本年七月訓令第五十七號傳染病豫防心得書虎列刺ノ部第四條ニ基キ左項ニ從ヒ取扱フヘシ

- 一 患者アリタル一家ノ遮斷ハ直ニ施行スルヲ得ヘシ
- 二 隣家ノ遮斷ヲ必要ト認ムルトキハ繪圖面及戸數人口等ヲ詳記シ縣廳ヘ經伺スヘシ

但時機緊急經伺ノ違ナキ場合ニ於テハ其遮斷ヲ施行シタル後經伺スルヲ得ヘシ

- 三 交通遮斷ノ施行上ニ付テ意見ヲ異ニスルトキハ重ニ從ヒ其遮斷ヲ施行シ置キ其狀況

ヲ具シ縣廳ノ指揮ヲ受クヘシ

四 市街又ハ村落ノ一局部以上ニ渉ル遮斷ハ明治十三年第三十四号布告傳染病豫防規則第十五條第二項ニ依ルヘキモノナルヲ以テ本令ノ限リニアラス

●德島縣訓令第五十九号 明治廿三年七月廿八日郡役所、市役所、町村役場、警察署、警察分署

本年七月縣令第三十四号ヲ以テ六種傳染病患者自宅療養準規則相廢候ニ付テハ自今傳染病患者自宅ニ於テ消毒又ハ看護行届カサルカ若クハ病毒傳播ヲ防キ難シト認ムルトキハ明治十三年七月第三十四号布告傳染病豫防規則第七條ニ依リ避病舎へ移入セシムヘキ義ト心得ヘシ

●德島縣衛訓第一九号 明治廿三年九月十三日 郡役所、市役所、警察署 虎列刺病疑似ノ患者死体排泄物等ノ消毒方ハ

明治十九年八月本訓令第二号及全年九月本訓令第五号ニ依リ取扱フヘシ且他病ニテ轉歸濟ノモノト雖モ虎列刺病患者ノ發病原因等探究上ヨリ全病ノ疑ヒチ存スヘキモノト認ムルトキハ本人又ハ親戚等ヲ承諾セシメ相當消毒法ヲ執行スヘシ

●參照 明治十九年八月廿五日 本訓令第二号郡長、署長、檢疫委員 虎列刺病疑似ノ患者ナルモ其排泄物汚穢ノ消毒ヲ爲サ、ルヨリ遂ニ該病毒ヲシテ他ニ傳播

セシメ或ハ一時ノ吐瀉症患者ニ強テ類似虎列刺病ノ名ヲ付スルカ如キ一ハ輕キニ過キ一ハ重キニ失シ各其中正ヲ得サルハ往々免レサルモノ、如シ故ニ苟モ虎列刺病ニ疑似ノ患者アリタルトキハ其病名ノ如何ニ拘ハラズ虎列刺病患者ノ排泄物汚穢物所分法ニ準シ總テ嚴重ナル消毒法ヲ施行スヘシ

●明治十九年九月六日
本訓令第五号部長、署長、檢疫委員
傳染病疑似ノ患者死屍ハ客年本縣甲第十五号布達第十三條但書ニ準シ火葬場外ト雖モ其係
官吏ニ於テ遺族又ハ親戚等ヲ諭シ承諾ノ上ハ臨時火葬不苦義ト心得ヘシ

2P-9

(可認省信遞)

明治廿四年一月十五日印刷同日出版

- 本書壹冊正價金三錢五厘但遞送料共トス●又郵券代用不苦
- 本書貳百部以上前金ヲ以テ御買上ノ向ヘハ壹部ニ付遞送料共金貳錢五厘宛トス
- 本書ハ前金御送付ナキ間ハ送本ヲ見合スヘシ

編輯兼 德島縣平民
 發行人 國安久助

同縣德島市大字德島町三
 百四十六番屋敷●一寄留

德島縣士族
 印刷人 遠藤春昇

同縣同市大字中通町三百
 五番屋敷